

ま、あ、よんでみて！

第 **32** 号
2022年3月

東京2020：パラリンピックと理学療法士の関わり



【特集】

- ・東京2020オリンピック競技大会 活動報告

【紹介】

- ・障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催について
- ・（公社）大阪府理学療法士会 公益事業部の活動について

発行：（公社）大阪府理学療法士会 公益事業部

〒540-0028 大阪府中央区常盤町1-4-12-301 TEL 06-6942-7233

E-mail: disabled@physiotherapist-osk.or.jp

印刷所：障がい者支援施設 大阪ワークセンター

〒594-0031 和泉市伏屋町5-10-11 TEL 0725-57-0883

まあ、よんでみて！

特集：東京2020オリンピック競技大会

2021年7月23日～8月8日にかけて、東京2020オリンピック競技大会が開催されました。コロナ禍での開催となり、選手・スタッフの方々はどのような対応で大会期間を過ごされたのでしょうか？

今回はスタッフとして参加された2名の理学療法士の先生方に、貴重なお話を伺いました。

東京オリンピックでの活動報告(選手村)：疋田 佳希 先生 (aruck lab)



写真1：会場での疋田先生

疋田 佳希（ひきた よしき）先生

- ・ aruck lab所属
- ・ 認定理学療法士（スポーツ）
- ・ 理学療法学修士
- ・ JFA C級Coach（サッカー/フットサル/フィジカルフィットネス）
- ・ AFC Futsal Fitness Coach（Level 1）

2021年7月18日より 5日間、「東京2020オリンピック競技大会」に「選手村理学療法サービススタッフ」として活動させていただきましたので、ご報告させていただきます。

私が晴海にある選手村へ入村した初日は、選手たちの入村ピークと重なり、村内は各国のアスリート達で溢れかえっておりました。一方、コロナ禍において感染対策は非常にしっかりしており、マスク・消毒・体温・PCR検査はもとより、選手とスタッフの動線まで完全にわかる徹底ぶりでした（セキュリティの関係で村内の撮影は禁止）。

我々理学療法士は、International Olympic Committee (IOC) の分類によると「Physio Therapist」という名称にわけられ、本邦で一般的な「Physical Therapist」は、あん摩マッサージ指圧師・はり師の方々も含む名称で呼ばれておりました。そのため、選手達は我々のことを「Physio」と呼び、選手村では約75%の選手が「Physioサービス」を利用したと報告を受けました（公式データは解析中）。

今回集まったPhysioスタッフですが、普段スポーツ理学療法に携わる方々が公募（日常会話程度の英語力・修士以上の学位）にエントリーし、講習会や面接を経て選ばれました。ただし、英会話力に関してはスタッフ間で個人差があり、かくいう私は単語と単語をどうにか繋ぎ合わせ、とても「会話」と言えるレベルではありませんでしたが、世界を歩き歩く選手達はそういうスタッフにも慣れており、「おもてなし」の気持ちがあれば言葉の壁を超えて十分な治療ができることを学びました。また、今回の理学療法サービスは開催期間を通して、選手達からも非常に好評だったと報告を受けました。このことから、本邦の理学療法士は世界的にみても「レベルが高い」ことが証明され、本当に嬉しく思います。

最後に、コロナ禍において開催が危ぶまれた「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」でしたが、大きな事故もなく無事に閉幕をむかえました。開催に向けてご尽力をいただいた主催者様ならびに日本理学療法士協会に厚く御礼申し上げます。



写真2：大会アクレカード(身分証)



写真3：IOCからの参加証

まあ、よんでみて！

東京オリンピックを経験して(競技会場)：東山 学史 先生(大阪回生病院)



写真4：会場での東山先生

東山 学史（ひがしやま さとし）先生

- ・大阪回生病院所属
- ・認定理学療法士（スポーツ/運動器/健康増進・参加）
- ・JPSA公認 障がい者スポーツコーチ
- ・JPSA公認 障がい者スポーツ指導員 中級
- ・アメリカ心臓協会 BLSインストラクター
- ・NSCA-CPT(全米ストレングス&コンディショニング)

私は7月23日～8月1日の10日間、「バレーボール」「ビーチバレーボール」のオリンピック競技会場にて、メディカルサービススタッフとして活動しました。今回は主にビーチバレーボール競技会場（お台場・潮風公園）での活動内容を御報告させていただきます。

競技会場内では、FOPと呼ばれる競技会場内で緊急時に備えてコートサイドに待機することや、各医務室（選手用、練習会場用）にて勤務しておりました。

活動環境については、スタッフが理学療法士のほか、医師、看護師、他にも大会組織委員会スタッフ、ボランティアスタッフで構成してました。勤務時間帯は約6:30～24:30（2部制シフト）で、常時10名前後のスタッフでチームを運営しておりました。私自身も現場では理学療法士のリーダーとして、管理業務も務めさせていただきました。

具体的な活動内容としては、競技前・中・後に外傷対応や傷害予防対応でテーピング、アイシング、創部処置、フィジカルチェック等を行いました。また、熱中症の緊急時対応も実施しました。ビーチバレーボールの競技会場は屋外ということもあり、熱中症のリスクが非常に高いと考えられます。医務室では常時アイスバス準備、また競技会場や練習会場等で暑さ指数（WGTP）の測定をするなど徹底して管理しました。また、本大会はコロナ禍での実施のため、アスリートへのコンディショニングサービス等を積極的に実施することなく、上記の様に緊急時対応が活動の中心でした。

活動中は毎日勤務スタッフが異なるため、緊急時対応の連携がうまくいかないことへの不安がありました。しかし、それらを共有・準備する時間を多く費やして対応しました。スタッフは当日に必ず、全員で緊急時の搬送練習を、様々なケースを想定して、毎日数回繰り返し実施しました。実施したケース例としては、試合中の熱中症、意識消失、頸髄損傷、脳震盪等です。緊急時に医師は、医学的評価や医務室医師や救急隊への連絡を行うため、実際の搬送業務は理学療法士が中心となって務めることが多かったです。

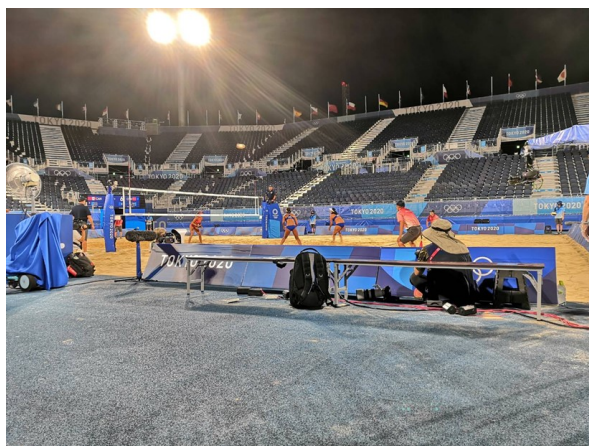


写真5：大会の様子



写真6：医務室の様子

最後にはなりましたが、今後の様々な競技大会に関われる機会があるとすれば、一人でも多くの理学療法士が経験してほしいと思っています。そしてその経験は、医療機関とスポーツ現場をつなぐ架け橋の一助になれると思っています。自分自身も日頃より、勤務先では整形外科患者を中心に関わっており、スポーツ現場はパラスノーボードのトレーナーしております。これからも今まで現場で得た知識を活かして、双方の視点から良いアプローチを続けていければと思っています。

私が所属し本機関紙を発行している公益事業部では、例年幾つもの競技大会でフィジオサポートのボランティアを募集しております（今年度はコロナ禍で未募集でしたが、来年度は例年通り募集を予定）。普段スポーツ現場に行くことのない理学療法士も多く参加しており、スポーツ現場への第1歩として最適であると感じてます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まあ、よんでみて！

紹介：公益財団法人 日本パラスポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者資格について

公益事業部では、令和4年度中級障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催を予定しています。

～中級障がい者スポーツ指導員養成講習会のお知らせ～

【予定日時】 令和4年11月（土・日）4日間

【共催】 大阪府障がい者スポーツ協会 【協力】 ファインプラザ大阪

こちらの養成講習会には、日本理学療法士協会会員であれば、どなたでも受講していただき資格取得が可能となっています。（講習会詳細については、府士会ニュースやホームページでお知らせします。）皆さんのお申し込みをお待ちしております。

そこで、公益財団法人 日本パラスポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者資格についてご紹介します。（公益財団法人 日本パラスポーツ協会ホームページ引用）

障がい者スポーツ指導員とは？

公益財団法人日本パラスポーツ協会及び加盟団体等が、公認障がい者スポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者で、日本国内の障がい者スポーツの普及と発展を目指して、障がい者スポーツのスポーツ環境を整備する上で専門的な知識、技術を有する人材の養成、資質向上を目的としています。

障がいのある人のスポーツ参加を支援する中で、障がい者スポーツ指導者に求められる役割は年々大きくなっています。同協会では6種の指導者資格を設けており、資格取得者がスポーツ指導や大会、教室、イベントのサポートなど、それぞれのフィールドで活躍しています。

そしてなにより、すべての障がい者スポーツ指導者の思いは、“スポーツの魅力を障がいのあるすべての人に知ってもらうこと”であり、そのパートナーとしての活躍が期待されています。

障がい者スポーツを支える6つの資格

初級障がい者スポーツ指導員

障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員。健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担います。地域の大会や教室など、スポーツ現場におけるサポートを行っております。資格取得後は、経験を積み講習会を受講することで、中級・上級指導員にステップアップできます。

中級障がい者スポーツ指導員

地域の障がい者スポーツ振興のリーダーとして、指導現場で十分な知識や経験に基づいた指導をする指導員。地域のスポーツ大会や行事において中心となり、地域の障がい者スポーツの普及・振興を進める役割を担います。また、より専門的な知識を学ぶことで、上級指導員やスポーツコーチを目指せます。

(なお、日本体育協会公認スポーツ指導者、日本理学療法士協会登録理学療法士の場合、一定の条件を満たせば、それぞれの資格取得者を対象とした中級講習会を受講することができます。)

上級障がい者スポーツ指導員

障がい者スポーツに関する高度な専門知識だけでなく、初級・中級指導員への助言や事業の企画運営など多様なスキルを持って障がい者スポーツに関わる指導員。大会やイベント等では、関わる人をまとめ、調整・マネジメントする力を持つなど、都道府県における障がい者スポーツ振興のリーダー的役割が期待されます。

障がい者スポーツコーチ

パラリンピックをはじめとする国際大会で活躍する競技者に対して、専門的に育成・指導ができる高度な技術を備えた指導者。都道府県の障がい者スポーツ協会や競技団体と連携し、障がいのある競技者の強化・育成などを推進していきます。受講するには、中級・上級指導員の資格を持つ方で競技団体の推薦が必要です。

障がい者スポーツ医

障がい者のスポーツ・レクリエーション活動において、様々な疾患や障がいに対応し、多くの障がい者が安全にスポーツに取り組むための、効果的な医学的サポートを行う役割を担います。関係団体と連携し、医学的な視点から障がい者のスポーツ実施における健康の維持、増進、競技力の向上を推進していきます。

障がい者スポーツトレーナー

スポーツトレーナーとして質の高い知識・技能を有し、かつ障がいに関する専門知識を有し、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる役割を担います。障がい者のスポーツ活動に必要な安全管理や競技力の維持・向上について、関係団体と連携して推進していきます。

まあ、よんでみて！

紹介：(公社)大阪府理学療法士会 公益事業部

公益事業部の活動紹介：藤井 隆文 先生（公益事業部 部長）

2021（令和3）年11月現在、公益社団法人大阪府理学療法士会の会員数は、1,258施設8,525名になりました。その中で公益事業部は、35名の部員で活動しております。昨年度はCOVID-19感染症拡大を受け、感染症予防のため全事業が中止となりました。今年度は11の事業を実施、予定しております。COVID-19感染症予防のためいくつかの事業は中止となってしまいましたが、少しずつ活動を再開しております。具体的にどのような事業をしているか以下に紹介します。

理学療法士数は、増加傾向にあり供給過多の状態になりつつあるとも言われており、職域拡大を目指した取り組みなども行われています。しかし、これらの需要を拡大していくためにはまず理学療法（士）を知ってもらうということが重要です。以前より「理学療法の日（7月17日）」に因んで全国各地で行われる介護予防・健康増進全国一斉キャンペーンなど様々な啓発活動は行われてきておりますが、まだまだ認知度は低いと感じております。理学療法を体験された方や理学療法（士）と関わった方々にはある程度認知はされていますが、それ以外の方々には医師や看護師などと比較すると少ないのが現状です。実際、リハビリテーション相談などでも「理学療法士とマッサージ師と何が違う？」「理学療法士と作業療法士はどう違う？」「医学療養士？」などの質問を受けたりする場面がまだまだ多くあります。



写真7：リハビリ相談コーナー

公益事業部では、紹介いたしました事業などを通じて、地域や行政など社会のニーズに応えていくとともに理学療法（士）の啓発も続けて行っております。まだまだ活動規模が小さい状況ですので今後より活動を大きくしていきたいと考えております。普段、病院や施設、在宅など様々な場面でご活躍の皆様におかれましては大変お忙しい中ではありますが、公益事業部の活動に是非ご参加ください。職場で経験することとは違った経験ができ、その経験を生かして普段の理学療法を行う上で知識や考察の幅を広げていくきっかけになると確信しております。また、皆様の職場や知人などに対して理学療法（士）がどのようなものなのか何ができるのかなど積極的にアピールしていただければ幸いです。

理学療法士は、生から死までの一生において様々なステージで関われる稀有な職業です。また、地域包括ケアシステムを推進していく上で非常に重要な役割を果たせる職業だと確信しております。皆さんと共により発展していくこと、また皆さんのより一層のご活躍を祈念しております。



写真8：講演の様子



写真9：リハビリ相談の様子

①介護技術講習会

府民や介護事業に関わる多職種を対象に介護技術を提供する。

②市民公開講座

地域住民の健康増進・疾病予防を目的に情報提供を行う。

理学療法（士）の啓発活動を行う。

③障がい児の保健・福祉活動

大阪府域の障がい児（者）に関わる理学療法士および関係職種の情報共有・情報交換、ネットワーク促進を図ることを目的とした事例検討会の開催。

小児理学療法実態調査

④大阪マラソンのランナーズサポート

車椅子ランナーに対するレース後のメディカルサポートを行う。

⑤バリアフリー展への参加

「リハビリテーション相談」をテーマにしたブースを出展。

「介護技術講習会」をテーマにしたワークショップを開催。

⑥重症児（者）の介助に関する技術講習会

重症心身障がいのある子どもと大人に関わる関連職種向けに身体介助技術の講習会を開催。

⑦各種障がい者スポーツ大会のサポート

大阪府障がい者スポーツ大会・全国アンプティサッカートーナメント・大阪国際車いすテニストーナメントの参加選手に対する、メディカルサポートの実施。

サポートスタッフに対するスキルアップ講習会の開催

⑧理学療法に関する相談

府民からの医療、介護、健康増進に関して相談対応を行う。

⑨発達系理学療法シンポジウム（公開講座）の開催

大阪府域の障がい児（者）に関わる関係職種間の情報共有・情報交換、ネットワーク促進を図ることを目的としてシンポジウムを開催。

表1：公益事業部の活動一覧

謝辞：本誌の作成にあたり、快くご協力頂きました方々に心から感謝します。

編集委員：井上拓弥、植田良、木村公英、朽木友佳子、河野竜也、須藤由佳、高森宣行、西之原隆宏、東山学史、藤野文崇、松並耀平、山川雅史（50音順）